『21世紀の知的協力委員会』 ~ 『多様性と共生への視点』 ~

2013年に新渡戸稲造(1862-1933)没 80 周年 & 新島襄(1843-1890)生誕 170 周年 シンポジウムを行った(画像)。 新渡戸稲造が国際連盟事務次長時代(1920~1926)に設立したのが『知的協力委員会』である。 【世界中の叡智を集めて設立した『知的協力委員会』には 哲学者のベルグソン (1859-1941)や 物理学者のアインシュタイン(1879-1955)、キュリー夫人(1867-1934)らが委員として参加し 各国の利害調整にあたった。『知的協力委員会の後身がユネスコ』】である。

筆者は、【原田明夫(1939~2017)検事総長・東京女子大学理事長】(画像)と、2000年『新渡戸稲造 武士道100周年記念シンポ』、『新渡戸稲造生誕140年』(2002年)、『新渡戸稲造没後70年』(2003年)、さらに、『新渡戸稲造 5000円札さようならシンポ』(2004年)を国連大学で開催したのが走馬灯のように駆け巡ってくる。 一番の思い出は、原田明夫氏と月1回『21世紀の知的協力委員会』を開催したことである。

- (1) 賢明な寛容さ (the wise patience)
- (2) 行動より大切な静思 (contemplation beyond action)
- (3) 紛争や勝利より大切な理念 (vision beyond conflict and success)
- (4) 実例と実行 (example and own action)

【『多様性と共生への視点 ~ 世界で・社会で・家庭で ~』という 争いのない社会を築くために何を拠りどころに考え、行動すればよいのか?、それが、『欣然たる面貌、快然たる微笑をもて』(新渡戸稲造)の実践であろう。】筆者とって『原田明夫氏との人生の邂逅は貴重な宝』である! そして、『われ21世紀の新渡戸とならん』(日本語版:2003年 & 英語版:2019年)の出版に繋がった。

2016年には、『矢内原忠雄記念 がん哲学外来』のスタッフの看護師が、『樋野先生 相関図 (21世紀の新渡戸稲造)』を作成された(画像)。素晴らしい勉学、能力には、大いに感動したものである。今こそ【国際貢献として『21世紀の知的協力委員会』の歴史的到来】ではなかろうか!



今、懸け橋をつくる。 - 国を越えて、 時を越えて!

今この国にもっとも大事なことはなにか。 真の意味の国際交流を実現し、またその先駆者であろうとしつづけた 二人の先人の生き方と考え方を振り返りながら、参加者の皆様と共有したいと思います。 日本だけのことにとらわれず、大きな視点で、 「今、懸け橋をつくろうではありませんか!」

第10回 お茶の水アカデミアシンポジウム

🖟 「新渡戸稲造没80周年記念・新島襄生誕170周年記念シンポジウム - 今、懸け橋をつくる。 ― 国を越えて、時を越えて! ― _

- 総合司会 島田 義也(放射線医学総合研究所)
- 講演 司会:鳥田 義也(放射線医学総合研究所)

『「京都時代の新渡戸稲造」

藤井 茂 (新渡戸基金事務局長)

『「日本人の精神的支え」

曽我 文宣(元放射線医学総合研究所)

『 「新島 襄 一 クラーク 一 内村 鑑三 一 新渡戸 稲造の 歴史の流れ」 樋野 興夫 (順天愛大学医学

樋野 興夫(順天堂大学医学部教授)

パネルディスカッション 司会:鳥田 義也(放射線医学総合研究所)

『「国を越えて、時を越えて」

藤井 茂 (新選戸基金事務局長)、曽我 文宣 (元放射線医学総合研究所)、 渡辺 その子 (文部科学監科学技術・学術政策研究所 総括上原研究官、元ユネスコ)、 斉藤 卓也 (文部科学名 こ) 世紀の知的協力委員会事務局長)、 奥村 二郎 (近畿大学医学部教授)

括 樋野 興夫 (21世紀の知的協力委員会議長) 「温故創新」 総

2/6(金)

時間:18:30~20:45 会場:中央大学 駿河台記念館 (285号室)

- 主 催:21世紀の知的協力委員会

連絡先: 放医研・鳥田 義也 (FAX 043-206-413

URL: https://sites.google.com



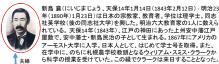
大震と同じを心を始めることとの他と

やまと平和を析る葉い



二宮 尊徳(にのみやたかのり)は、 江戸時代後期の経世家、農政家、思想家。

吉田松陰(よしだしょういん、文政13年8月4日(1830年8月4日) 年9月20日) - 安政6年10月27日 (1859年11月21日) 満29歳没。日本の武士(長州藩士)、思想家、教育 名。一般的に明治維新の精神的指導者・理論者・ 倒薪論者として知られる。私塾「松下村塾」で、後の 明治維新で重要な働きをする多くの若者を育てた。 「ればかくなるものと知りながら やむにやま れぬ大和魂'



れている。天保14年(1843年)、江戸の神田にあった上州安中藩江戸 屋敷で、安中藩士・新島民治の子として生まれる。1867年にアメリカの ·モスト大学に入学。日本人として、はじめて学士号を取得。また 在学中に、のちに札幌農学校教頭となるウィリアム・スミス・クラークから科学の授業を受けていた。この縁でクラークは来日することとなった。

新島 八重(にいじま やえ)、弘化2年11月3日(1845 12月1日) - 昭和7年(1932年)6月14日)は、江戸時代 期(幕末)から昭和初期の日本の女性。新島襄の妻 勝 海舟(かつ かいしゅう) / 勝 安芳(かつ やすよし、文政6年1月30日〈1823年3月12日〉 - 明治32年



ィリアム・スミス・クラーク (William Smith Clark 1826年7月31日 - 1886年3月9日) は アメリ ツイリアム・スミス・ソフーツ(William Smitth Clark, 12:0年7月31日 - 18:00年3月31日 - 18:00年3月31日 - 18:00年3月31日 - 18:00年3月31日 - 18:00年3月31日 - 3:00年3日 大学)初代教頭、同大学では専門の植物学だけでなく。自然科学一般を委託で教えた。この他、学生達に聖書を配り、キリスト教についても講じた。のちに学生たちは「イエスを信じる者の誓約」に次とと書名し、キリスト教の信仰に入る決心をした。日本ではシラーグ博士として知られる。



影響

幌農学校 札幌農学校 胡生 2 期生

新渡戸 稲造(にとべいなぞう、1862年9月1日(文久2年8月8日) - 1933年(昭和8年)10月15日)は、日本の教育者・思想家。 農業経済学・農学の研究も行っていた。国際連盟事務欠乗も務め、著書 Bushido: The Soul of Japan (『武士道』)は、流麗な 英文で書かれ、長年誘み続けられている。東京女子大学初代学長。東京女子経済専門学校(東京文化短期大学・現:新渡 戸文化短期大学)初代校長。

F X に返納人チ/切いなx。 「知的協力委員会(1922年)は、当時、国際連盟の事務局次長であった新渡戸稲造が、事務を担当し、12名の有議者メン バーからなり、議長は、ベルグソン(哲学者)であり、アインシュタイン、さらには、キューリー夫人も、メンバーである。



(1899年)1月19日)は、江戸時代末期(幕末)から明治時代初期の武士(幕臣)、政治家。 位階勲等爵位 は正二位勲一等伯爵。 山岡鉄舟、高橋泥舟と共に「幕末の三舟」と呼ばれる。 当時、再三暗殺の標的に されたが、一度も自分の剣を血で濡らすことはなかった。"ナニ蚤や虱だと思えばいいのさ。肩につか まって、チクリチクリと刺しても、ただ痒いだけだ、生命に関りはしない"。

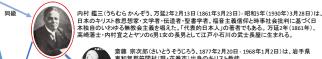




吉野 作達(よしのさくぞう1878年(明治11年)1月29日-1933年 (昭和8年)3月18日)は、大正時代を中心に活躍した日本の政治 学者、思想家である。東京帝国大学で参増に立ち、大正デモクラシーの立役者となった。1878年(明治11年)、宮城県志田郡大柿 村95番地(男・大嶋市古川十日町)に木総織物の原料を扱う糸綿 商吉野屋の長男として生まれた。

佐久間象山、大久保利通、 木戸孝充、伊藤博文、 大隈重信、板垣退助

新渡戸福建 は、第一高等学校の校 長の時(1906-1913)、「学生は、校 長室は複節が高いので、相談に来 づらいり。子校の設備に、本理 ロケー後、カフェの場所を設定し、そ こには、当時、高等学校の学 生であった矢内原忠雄も、参加して いた。矢内原忠雄は「本題通り」、 「個める学生の為に、カフェを削くの が、夢」であったが、夢裏上なずに 胃癌で亡くなった。



日本のキリスト教思想家・文学者・伝道者・聖書学者。福音主義信仰と時事社会批判に基づく日 本のキリスト教思想家・文学者・伝道者・聖書学者。福音主義信仰と時事社会批判に基づく日 本自由ないのでは、日本の日本の書者でもある。万延2年(1861年)、 高崎藩士・内村有重之とヤツのの別1女の長別として江戸小石川の武士長屋に生まれる。



斎藤 宗次郎(さいとう そうじろう、1877年2月20日 - 1968年1月2日)は、岩手県 東和賀都笹間村1現・花巻市)出身のキリスト教徒。 無教全主義ギリスト教徒である内村第三の最も忠実な弟子の一人で、その死 に至るまで身の回りの世話をした。また、『南ニモマケズ』のモデルとも言われて いる。



南原 繁(なんばらしげる、1889年(明治22年)9月5日 - 1974年(昭和49年)5月19日)は、日本の政治学 者。1907(明治40)年7月、第一高等学校人学<u>飯渡戸福造</u>校長)。1910(明治43)年7月、東京帝国大学 法科大学政治学科入季,1911(明治44)年<u>九村産</u>三の聖書講義に加わる。東京帝国大学の秘長を務め た(1945~1951)。東京大学名誉教授。



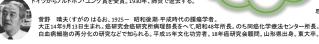
矢内原 忠雄(やないはらただお、1893年(明治26年)1月27日 - 1961年(昭和36年)12月25日)は 日本の経済学者・植民政策学者。東京大学総長。日本学士院会員。正三位勲一等瑞宝章。 受 援展今治市に四代鉄いた家系の医者の子として生まれる。旧朝等一高等学校に在学中、無勢 会主義者の内村龍三が主催していた聖事研究会に入門を許され、キリスト教への信仰を深めて いた。東大に入学後は、吉野作造の民本主義や、人選主義的な立場から植民政策学を講じて いた。東大に入学後は、吉野作造の民本主義や、人選主義的な立場から植民政策学を講じて いた新渡戸福造の影響を受け、思想形成を行っていった。 皿の砂をと大い、からからに17、いっ。 地種 勝三郎(やちぎた)かつさぶろう、1863年4月10日(文久3年2月 23日)・1930年(昭和5年)3月2日)は、日本の病理学者。人工癌研 究のバイオニアとして知られる後に同識の医師である12時では一般である 素子となり、ドイツ語を学びつの医師を目指し、1885年に東京大 学医学部(のちの東京帝大医学部)に入学し、卒業時は首席という 成籍を挟す。1891年に東京帝大医学部が異となる。1892年から イツに留学し、帰国後の1895年に東京帝大医学部教授に就任。東 門は病理解的学、特に癌研究では日本の第一人者であった。1915 年には世界ではじめて化学物質による人工癌の発生に成功。1919 年に帝国学士院養子受賞、1924年に清水左手年退音。1925年に ドイツからノルドホフ・ユング賞を受賞。1930年、詩炎で逝去する。



がん哲学の源流

恩師

吉田 富三(よしだとみぞう、1903年(明治36年)2月10日 - 1973年(昭和48年)4月27日)は、日本の病理学者。福島県石川郡浅川村(現・浅川町)生まれ。 ラットの腹水癌である吉田肉腫と腹水肝癌の発見で実験腫瘍学に新たな扉を開いた 財団法人癌研究会癌研究所長、日本学士院会員、日本学術会議会員・副会長(第6 期)、国語審議会委員(第1-6期)などを務めた。





Alfred G. Knudson (1922 年 8 月 9 日-2016 年 7 月 10 日) はアメリカの医師、がん遺伝学に特化した遺伝学者。